



道程

西東京市立ひばりが丘中学校

第3学年

第31号

令和7年11月12日発行

期末考査お疲れ様でした。昨年までなら、この後はクリスマスや冬休みで気持ちが上がっていくところですが、受験生はもう少しの辛抱です。引き続き進路に向けて、頑張っていきましょう。

進路希望調査の締め切りが14日になっています。まだ提出できていない人は、必ず提出してください。

合唱祭の最後の作文はE組です。



「最後の合唱祭を終えて」

E組

「さあ聞こえる今すぐ新たな未来がめぐり逢う」これは私たちE組の自由曲、「言葉にすれば」の最後の歌詞だ。この歌詞に私たちの思いがすべて詰まっていたと思う。

私たち三年生にとって、最後となる今年の合唱祭。そんな大切な合唱祭の自由曲に私たちE組が選んだ曲は「言葉にすれば」だ。これは学年で一番難しいと言われていた曲だ。遠藤先生にも相当頑張らないと完成しないと言われていた。そして始まった合唱練習、笑い声や話し声が音楽室に響く。もちろん真面目に曲と向き合い、一生懸命練習している人たちもいた。しかし、全員が真面目に取り組めているとは言えない状況が続いていた。合唱祭が近づいてきた頃、帰りのホームルームで練習日数が残り少ない、という話が上がった。そのとき、まだぐちゃぐちゃでまとまる気配すらない合唱を思い出し、「賞をとるのは難しいだろう。」と思ってしまった。そうして始まった毎回のクラス練習。始めはぐちゃぐちゃだった合唱が練習回数を重ねるごとにやっと形になってきた。それまで真面目に練習していなかった人たちもパートリーダーや文行を中心に一生懸命取り組んでいる人たちを見て真面目に練習してくれるようになった。そうして迎えた本番、アカペラ部分などの練習でたくさんつまずいた部分を乗り越え、最後のフレーズになった。「さあ聞こえる今すぐ新たな未来がめぐり逢う」。私はこの歌詞に三年E組みんなの合唱への思いが込められている気がした。歌い終わりの体育館に響き渡る余韻は今までで一番綺麗だったと思う。結果は最優秀賞をとることはできなかったけど、優秀賞をとることができた。

今回の合唱祭で学んだこと、感じたことを今後も忘れずに生活していきたい。

「今年こそ最優秀賞を」

E組

僕は一年生と二年生のときの合唱祭でどちらも優秀賞だったので今年こそ最優秀賞が絶対にとりたいと心に誓っていた。

僕のクラスが自由曲に選んだ曲は、「言葉にすれば」だ。最初のアカペラのハーモニーが美しく、何より各パートが重なるところがとてもかっこいい。クラスでこんな感じで歌えたら良いなと妄想を膨らませ練習が開始した。まず初めに、僕の担当パートであるバスパートの音声を最初から最後まで聞いてみた第一の印象が「訳わからん!」。一番難しい曲を選んだのは分かっていたけど想像を絶する難しさだった。なんやかんやで時は進み自由曲も課題曲の「群青」もそれなりに仕上がってはきていた。合唱練習期間に入りクラスの合唱祭への意識も高まっていた。そして、初めての学年リハーサルを迎えた。舞台上に立ったとき、すごく緊張したが出だしは順調に歌うことができた。しかし、その後の男性パートでテンポが速くなってしまった。学年リハで分かった E 組の課題は男性パートのテンポが速になってしまうことと、女性パートが男性パートと比べて声が小さく感じる事があがった。課題がはっきりと分かったことで練習の合唱に磨きがかかっていき、合唱祭前日にかなり完成度を高めることができた。そして本番当日、他学年や保護者に見られているという緊張感から足が震えてしまったが何とか歌いきることができ、ものすごい達成感を感じた。他のクラスの合唱を聞き終わり結果発表が行われた。今年こそ最優秀賞をとりたいと願っていた。そして結果は・・・優秀賞。賞をとれて嬉しい気持ちと最優秀賞まで一步届かなかった気持ちが宙を舞ったブレザーのように心の中で高くなった。最後に、本気で最優秀賞をとりにいく熱を感じられたことや、難しい曲をここまで仕上げる事ができた E 組のみんなと歌えたことを誇りに思う。

「三十五人で」

E組

拍手が自然に起こっていた。文化行事委員会のクラス紹介スピーチに私は感動した。冷たかった手も、真顔になってしまう緊張もいつの間にか和らいでいた。

優秀賞。嬉しくもあるが悔しくもある。だが、この結果を得られたのは私たちの知らないところで支え、努力してくれる存在と、それに応えてくれる仲間がいたからだと思う。特に文行の存在が大きい。クラスラインでお手本となる動画を送ってくれたり、合唱祭前日には「温かいベッドで寝て、明日全力で歌い切ろう。」など、ほっこりする言葉をかけてくれたりした。私は家族や友人にこのメッセージを自慢してしまう。文行の二人が三十三人のことを考えてくれるからこそ、優秀賞へたどり着けたのだと私は思う。

「鳥肌が立つか。」

これは、私が合唱練習をする中で一番大切だと考えていることである。冒頭の拍手のように、感動はすべてが揃わなければふれられない感情だと思うからだ。合唱で例えると、声量やタイミング、表情、声の調和、想いが重なり溶け合うことである。私は舞台の上で鳥肌が立つ部分がたくさんあった。しかし、他学年、他クラスの合唱の中でも感動が多く押し寄せてきた。きっと、クラスの数だけ私たち E 組と同じように少し違うストーリーがあったと思う。

悔しくても、次の舞台はもうない。来年、再来年と「言葉にすれば」にたくさんの声が吹き込まれますように。

